

# Kids Loco Project International Meeting 2024

高塩 純一<sup>1)</sup>、安田 寿彦<sup>2)</sup>

1) びわこ学園医療福祉センター草津

2) 滋賀県立大学

## 1. はじめに

昨年(2023)の8月31日から9月1日にかけて、北里大学相模原キャンパスで「Kids Loco Project International Meeting 2024 - 動くことは学ぶこと -」が、横山美佐子実行委員長のリーダーシップのもと、盛大に開催されました。この会議は、2020年に予定されていた日本子ども学会での特別講演が新型コロナウイルス感染拡大のため中止され、4年越しで実現したものです。スウェーデン・ルンド大学健康科学部のLisbeth Nilsson教授による特別講演は、その注目すべきハイライトでした。

「Kids Loco Project」(以下KLP)は、2007年に筆者と滋賀県立大学の安田寿彦教授が共同で設立した任意団体です。設立以来、KLPは、Baby LocoやCarry Locoなどの電動移動支援機器の開発を進めるとともに、ワークショップや講演会を通じて、子どもたちの移動権の支援や学びの機会を提供してきました。これらの機器が今仙技術研究所により市販化されたことで、KLPの活動は新たな課題に直面しています。それは、これらの製品をどのようにして子どもたちに届け、支援を広げるかという点です。今回のKLP International Meeting 2024は、この課題を解決するためのスタートとなる重要な機会でした。

開催期間中、台風11号が日本列島を縦断し、特に西日本からの参加者は交通機関の停止により、ほとんどがZoomによるリモート参加を余儀なくされました。しかし、悪天候の中でも現地にたどり着いた

参加者が60名以上おり、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式での開催は結果的に成功し、多くの参加者にとって非常に有意義なものとなりました。

## 2. 大会要旨

大会は、筆者による基調講演「動くことは学ぶこと - Kids Loco Projectの現在・過去・未来」によって幕を開けました。この講演では、KLPのこれまでの活動が紹介され、今後の展望が示されました。次に、Lisbeth Nilsson教授による特別講演「Driving to Learn」が行われました。Nilsson教授は、電動移動支援機器を早期に使用することが子どもの発達にどのような影響を与えるかを詳細に説明し、自立性や自己決定能力の促進における重要性を強調しました。しかし、欧米においてもこの考え方が広く受け入れられているわけではなく、その普及にはさらなる取り組みが必要であることも指摘しました。

続いて、シンポジウム1「電動移動機器を用いた『動くこと』の自己決定から子どもたちは何を学んでいるのか?」が開催されました。4名の登壇者が、学校教育、医療福祉、家族の視点、工学的視点など多様な立場からの報告を行いました。司会と一部の登壇者はZoomを介しての発表となりましたが、オンラインであっても臨場感あふれる議論が展開されました。また、シンポジウムを英語字幕付きで世界に向けて配信すべきだという意見も寄せられました。

シンポジウム終了後には、13件のポスター発表が行われ、参加者は熱心に発表者の説明に耳を傾け、活発な議論が展開されました。研究者や実践者が日常の試行錯誤を基に発表した内容は、今後の研究や実践に対する貴重な刺激となりました。

2日目には、長野大学社会福祉学部の繁成剛教

1) びわこ学園医療福祉センターリハビリテーション課

E-mail: junichitakashio@gmail.com

2) 滋賀県立大学工学部機械システム工学科

授による教育講演「子どもの動きたい気持ちを叶えるデザインワーク - 療育の現場で生まれた移動支援機器 -」が行われました。繁成教授は、福祉機器開発の黎明期から療育現場での取り組みに尽力してきたことについて述べ、彼の研究がKLPの誕生に与えた影響を再確認する機会となりました。

その後、シンポジウム2「子どもの動く権利を考える」が開催され、3名のシンポジストが発表を行いました。このシンポジウムでは、日本における補装具支給制度の地域差や、電動車椅子が十分に普及していない現状が明らかにされ、今後の制度改革に向けた具体的な議論が行われました。

口頭発表では、ハイブリッド形式にもかかわらず、画面越しに熱意が伝わる発表が多く、物理的距離を超えた一体感ある討論が行われました。

### 3. まとめ

今回の学会は、KLPがより多くの方々に認知され、さらなる協力者が増えていることを実感する場となりました。特に、和洋女子大学の高木憲司先生から「Baby Locoを全国に普及させるために協力したい」という申し出を受けたことは、運営委員一同にとって大変励みとなり、KLPの活動が広がる可能性を示唆しています。

日本の障害児・者福祉の先駆者である糸賀一雄氏が「制度は作られるものだ」と語ったように、私たちKLPも、制度が整っていない現状に満足せず、子どもたちがより良い環境で成長し、学ぶことができるような制度を作り上げていくことが重要だと考え

ています。今後も、子どもたちの移動の権利を守り、その学びを支援するために、KLPの活動を続けていく所存です。



図1 情報交換会後の集合写真



図2 学会終了後に行われた体験会

(本稿で使用している写真は承諾を得て掲載しております。)